

健康

【質問】 30代男性です。白血病で抗がん剤治療を受けたことになりましたが、副作用で精子を作る機能が低下すると聞きました。昨年結婚して子どもが欲しいと考えており、精子の凍結保存を勧められましたが、子どもができる確率はどのくらいなのでしょう。健康な子どもが生まれるのかも心配です。

薬副作用による生殖機能低下



賀川 久美子 徳島大学病院 血液内科講師

【回答】 白血病や悪性リンパ腫など血液がんの患者さんに対する治療は近年、大きく進歩し、抗がん剤治療や放射線治療、造血幹細胞移植などを組み合わせることで、治療が期待できるようになってきました。そんな中、がんが治った後の性腺機能低下(精子や卵子を作る機能が障害されること)や妊孕性(妊娠のしやすさ)の喪失が注目されています。医療機関で現在行われているがん患者さんに対する精子や卵子、受精卵の保存について説明します。

凍結精子生存率は50~80%



が作られない状態(無精子症)になることが知られています。年齢や治療回数などで程度は異なりますが、影響の強い薬剤として「シクロフォスファミド」「メルファラン」「フルファン」などが挙げられます。その他抗がん剤でも、一時的な無精子症になるものがあります。精子保存は、そのような抗がん剤治療を受ける前に専門病院で精子を採取し、凍結保存します。比較的容易にできるため、治療が急がれる場合や全身の状態が良くないケースを除き、保存可能です。受精後の精子の生存率は50~80%とされています。凍結精子による

妊娠例は古くからあり、生まれた子どもが新鮮精子で妊娠した場合と比べ、発育に悪影響があったり、先天形などこの頻度が高くなったりという報告はありません。女性のがん患者さんにとっても、抗がん剤や放射線治療後の無月経や不妊症が問題となつています。閉経はこれらの治療に敏感な臓器で、抗がん剤治療には高頻度で一時的もしくは長期的な無月経になります。治療後に月経が回復しても妊孕性が損なわれている場合があります。大量の抗がん剤や放射線を使う造血幹細胞移植後は、ほぼ100%の確率で卵巣機能が失われます。女性患者さんの妊孕性を温存法として、結婚されている若年の患者さんには受精卵保存が行われます。受精卵保存のためには、卵子を体から取り出す「採卵」が必要になります。採卵の前に10~14日間、ホルモン剤を注射して卵を育てます。採卵を行う際は外来で小手術を行います。抗がん剤治療中は免疫機能が低下し、出血を止めるために必要な血小板も減少するため、病状によっては手術できないこともあります。近年、未婚の女性患者さんに対しても、未受精卵を保存する技術が開発されています。凍結受精卵で妊娠する確率は20~30%ですが、未受精卵でも受精卵と比べて遜色のない妊娠率が期待できます。

子どもへの悪影響なし

生殖年齢の患者さんは、治療によって引き起こされる性腺機能障害という後遺症の発症リスクや、そのリスクを回避する治療が可能かどうかを担当の医師とよく話し合うことが大切です。そして不妊になる可能性が高い場合は妊孕性を保護するために、精子や卵子、受精卵の保存を考えてみてください。(第4土曜掲載)

がんに関する質問は徳島がん対策センター(電話0898(6334)6442)。(平日午前8時半から午後5時まで)にお寄せください。詳しくはセンターのホームページ <http://www.tokushima-gan.jp/> をご覧ください。